

# 地域おこし協力隊通信

第24回



リポーター…  
森山健吾 隊員



皆さんこんにちは!!  
24回目の協力隊通信です。今回は、コーチとして活動している潮来ソフトテニススポーツ少年団(以下スポ少)で行われた卒団式についての話題をお届けします。

あいにくの天気のため、卒団式と同時に行うはずだった「親子テニス大会」から「親子紙飛行機大会」に変更。それでも全員が楽しそうに過ごしていたのが印象的でした。その後、卒団式も行われ、無事6年生を見送ることができました。途中、卒団生一人ひとりの挨拶で、思わずウルつときたのはここの話。そして、卒団式後、雨の上だったコートで6年生と最後にテニスをすることもできました。

上に短い1年でした。それでも、こどもたちと過ごした日々は私にとってかけがえのないものでした。最近よく思うのが、こどもたちにテニスの楽しさを教えるつもりが、逆にこどもたちから教えられるというところ。「こどもたちから学ぶ」とはこのことかっ!と痛感しているところです。

4月から中学生という新しいスタートを切ったこどもたち。慣れない環境に不安や戸惑いを抱えているかもしれません。また、新型コロナウイルスの影響により、思うようにいかないこともあるかもしれません。それでも、目標や夢に向かって挑戦・チャレンジし続けてほしいと思います。スポ少でこれまで頑張ってきたこどもたちならそれができると確信しています。こどもたちのこれからの活躍を願うとともに成長した姿でまた会える日を楽しみにしています。

## まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

### 潮来市の誇れる自然

#### 田んぼで羽を休めるシギ・チドリ

第63回

静かなゴールデンウィークでしたが、潮来市内では田植えが無事終わったようです。水を湛えた田んぼで、イネがすくすくと育っています。突如として現れるこの人工湿地帯では、旅鳥のシギ・チドリが、越冬地のオーストラリアや東南アジアなどから繁殖地のシベリア方面などへ向かう途中で羽を休めつつ、ほっと一息を休めています。

北浦湖畔の水原の田んぼでは、チドリの仲間のムナグロ(漢字名で胸黒)が50羽ほど群れています。顔から胸を過ぎて腹まで黒色部が目立ち、背側は金色です。内陸性湿地で多い種で、立ち姿がシュツとしています。シギの仲間のキョウジョシギ(京女鷗)は、赤みがかった茶色や黒のまだら模様の特徴。和名は京都の女性の着物すがたに由来し、英名のTurdoidesは小石をひっくり返しながらエサを採る習性にちなむもの。この採餌行動は田んぼの畦でも見られます。本種のほか、やや反り上がった長いくちばしのオオソリハシギ(大反嘴鷗)は、海の近くで見かける種ですが、水郷地帯も通過していきます。昨年は、とても長い足と細長くちばしが特徴のセイタカシギ(背高鷗)も見られました。田んぼの水深がやや深いところでも、この足で難なく歩きながら、エサを食べていました。

田んぼで羽を休めて栄養補給もしたシギ・チドリは、5月半ばには忽然と姿を消します。遠方の繁殖地へ向かうためです。長旅では悪天候や捕食者の襲来などの幾多の困難が予想されます。それらを無事乗り越えて、夏場を繁殖地で過ごし、秋の渡りシーズンに市内の田んぼに彼らが幼鳥とともに飛来するのを待つとしましょう。

茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション  
加納 光樹



セイタカシギ  
2020年4月30日 水原



オオソリハシギ  
2021年4月24日 水原



キョウジョシギ  
2020年4月30日 水原



ムナグロ  
2020年4月30日 水原